２０１９年１０月　２日

大阪府議会議長　様

２０２５年万博の会場を「夢洲」とする計画
及び、「ＩＲ・カジノ」誘致計画に関する請願書

「請願趣旨」

１、「夢洲」は廃棄物最終処分地＋国際物流基地の開発途上にあります。

「夢洲」は、産業廃棄物・建設残土・家庭ごみ・災害ごみ・浚渫土砂などの最終処分地として今後も延命が必要です。　また、埋立・整地した土地利用は「国際コンテナ戦略港湾」と位置付けられ、「阪神港」の重要な「物流拠点」として発展途上にあり、今後も物流ターミナル用地の継続的拡大は必至であります。

この物流拠点計画を「万博」、「ＩＲ・カジノ」用地のために変更することは、経済的リスクが大きいと考えます。

２、「夢洲」の土地利用は「物流拠点」と自然環境・自然エルルギーの調和で！

３９０ha の面積を有する「夢洲」は、自然環境を生かして「再生可能エネルギー」や生物学、医学などの「ライフサイエンス」の普及場所として、「国際物流」と共に、「関西イノベーション国際戦略特区」としても指定されています。　この特区を生かしつつ、「夢洲」をＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の掲げる理念に沿った総合計画を進めるべきと考えます。

３、「夢洲」に多数の集客を目的とする「観光開発」は危険で無謀と考えます。

「夢洲」は廃棄物等で埋立てた土壌であり、地盤沈下も激しく、この軟弱地盤に「大きな建築物」は不適であります。　また「南海トラフ地震」が今後３０年以内に発生する確率が８０％と言われている今日、この地に年間３千万人近くの集客を目的とする施設の建設は安全・防災面からも大きな問題だと考えます。

４、カジノは、市民社会に相いれない「ギヤンブル」、巨額投資は「リスク」大と考えます。

ＩＲ・カジノ誘致を万博と抱き合わせで推進する構想は、市民の合意を全く得られていません。直近の「朝日新聞社」の世論調査でも、カジノ誘致反対が７１％を占めています。

ＩＲ・カジノには、その候補地とする「夢洲土地整備」、「インフラ整備」、その上に「万博会場建設費用の自治体負担」等を合わせると、２千億円近くの府・市の資金投入が必要で自治体財政を破壊しかねない巨額の公費支出となります。

試算ではＩＲの年間売上げを４８００億円とし、内、カジノから３８００億円を見込み、まさにＩＲと言うより「カジノ」施設であります。

しかも入場者の７割が日本人と見込まれており、ギャンブル犠牲者の大半は日本人となります。

これは「ギヤンブル依存症」の増大と合わせて、府内の一般消費を減退させることになり、大阪経済への大きなリスクとなると考えます。

５、「夢洲」への交通アクセスは２本、物流と観光の共存は「共倒れ」を招きかねません。

「夢洲」へのアクセスは「此花大橋～夢舞大橋」、「夢咲トンネル」の２本であります。ここでの観光開発は連絡橋やトンネルの大混雑・渋滞を発生させ、物流基地の機能にも大きく影響します。　「二兎追うもの一兎も得ず」のことわざの通り、共倒れの可能性が大だと考えます。

「請願事項」

１、「２０２５年万博」の開催地を「夢洲」とする計画を白紙に戻し、より安心・安全で巨額の公費負担を要しない候補地を選定するように再検討をしてください。

２、「カジノを含むＩＲ」誘致が未決定な中で、施設建設への時間短縮の名のもとに大阪府・市が代行して行おうとする「環境影響評価」（環境アセスメント）については、根拠法のないものであり、そのための１７４９万円の補正予算案について、慎重な審議を求め、今府議会では継続審議としてください。

３、国民の７１％が反対する「カジノを含むＩＲ」誘致の計画を白紙に戻して、再検討をしてください。

４、昨年の国会におけるＩＲ実施法議決時の参議院付帯決議にある「住民の合意形成に努めること」を尊重し、公聴会のみならず、府内各市町村及び大阪市の各区における説明会・意見聴取の場を設けてください。

以　上

紹介議員

大阪府議会議員　　野　々　上　　愛

請願者

団体名　：ＳＴＯＰ！カジノ大阪
代表者　：　服　部　良　一

団体名　：　どないする大阪の未来ネット
代表者　：　馬　場　徳　夫